

私を育てた
あの時代、あの出会い

第15回

2人の師の背中を追いかけて 教師として大切なことを学んだ

大分県 日田市立三芳小学校校長 渕健一 FUCHI KENICHI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、渕校長が語る。

何度駄目出しをされても
食らいついていった学習会

大学は機械工学が専攻で、教師を目指したのは卒業間際でした。書店でふと手にした『教育基本法』の「教育は、人格の完成をめざし……」の部分を読み、自分が生涯をかける職業は教師だと気付いたのです。通信教育で勉強し、小学校教師に採用されたのは26歳の時でした。

目の前の子どもをより良い方向に導きたい——理想に燃えていた私がかむしゃらでした。教育学を体系的に学んでいない引け目もあり、とに

かく子どもと向き合い、経験を積んで自分の教育を築こうと考えました。

しかし、当時の私の授業は、スモールステップの発問・指示、解説をしていて、子どもに発表を促す私の声教室に響いていました。一方、隣のクラスでは、子どもが目を輝かせ、自分の言葉で発言し、子どもの考えがたくさん生かされていました。注意深く見ると、授業の組み立てがうまく、児童理解と教材研究がしっかりと出来ていることが分かりました。どうすればそれがうまくできるのか。もがいていた教師4年目に出会ったのが池田具美先生です。指導



ふち・けんいち 専門教科は算数。日田市立日隈小学校、日田市立羽田小学校、日田市立若宮小学校、日田市立桂林小学校、大分県教育委員会教育事務所長などを経て、現職。

1980 (昭和55)

新採として
日田市立日隈小学校
に赴任

1983 (昭和58)

日田市立羽田小学校
に赴任。指導主事の
池田具美先生と出会い
指導を受ける

1990 (平成2)

日田市立若宮小学校
に赴任

1992 (平成4)

上津江村立雑谷小学校
に赴任

1994 (平成6)

中津江村立丸蔵小学校
に赴任

1995 (平成7)

大分県教育委員会
指導主事に着任。
その後、
学校教育指導課長、
教育事務所次長に
昇任

2005 (平成17)

日田市立桂林小学校
に校長として赴任

2008 (平成20)

大分県教育委員会
教育事務所に着任

2011 (平成23)

日田市立三芳小学校
に校長として赴任

『討論の成立した』授業をするのがプロの教師



主事として来校され、指導案や授業を見ていただきました。池田先生の言葉は厳しく、「教師が子どもの発表力・討論力を養成できていない」「緊張感のある授業にもっていくための授業規律がなっていない」と何度も言われました。

それでもめげずに私は、池田先生が主宰する学習会に参加しました。月1回、小・中学校の教師7〜8人が集まり、1人の指導案を題材に、めあて、教育課程、教材、授業展開

は体系的か、児童理解と整合性はあのかを討論しました。池田先生はよく「子ども同士の討論が成立した」授業をするのがプロの教師。プロといえる教師は、「子どもの授業展開能力」をどのように養い・鍛えるかの技（指導法）を身に付けている」とおっしゃっていました。経験豊かな先生方と真正面から議論し、いろいろな技（指導）法を教えてください。ただいた学習会は、自分の教育観と技能を磨くまたとない機会でした。

学んだあとは実践です。同僚たちに声を掛け、月3〜4回は授業を見てももらいました。略式の指導案を渡し、発問の仕方、子どもの発問に対する受け答えなど、何でも意見を言ってもらい、自分からも授業を見に行きました。自分だったら、どう答えるか、どう発問するかを考えながら授業を見て勉強したのです。

展望がなければ 決断は出来ない

児童理解と教材研究の大切さは、私が結婚時に養子となった母・初恵もよく言っていました。母は日田市で初の女性校長となった人で、大阪へ就職試験に行く生徒の付き添いも保護者の代わりに行くなど、どの子にも分け隔てなく労を惜しまない教師でした。また、後に見る人が教材研究に活用できるようにと、子どもの様子や授業内容をきちんと書面に残していました。

そんな母から教えられた言葉が「啐啄同時^{そつたくどうじ}」、子どもが求めている時に適切な指導をすることが重要だということ。私も、不登校の子どもと向き合う際には、その機を逃さないよう、他の教師に自分のクラス

を支援してもらってでも、子どもに働き掛けました。マネジメントの面でも、母から「目標がなければチャンスは見えない」「展望（ビジョン）がなければ決断できない」ことを教えてもらいました。

本校は、校長・教頭・主幹の3役会議と運営委員会の下に、学力・人間力・体力のそれぞれの課題解決に当たる「チーム制」（縦の組織）と、学年担当全員でその学年の子どもを見取り指導する「学年担任制」（横の組織）のマトリックス組織にしています。情報を常に共有することによって、全教職員の共通理解を深め、教師が個人だけでなく、学校全体としても力を発揮できるように、学級・学年・学校経営の一体化を進めています。

校長としての私の役割は、明確な方針を出し、決めたら絶対によれないことです。かつて池田先生や母に学び、自分なりに理解し実践してきたように、今の先生方が私の実践から学び、自分なりに考えて実践し、次の世代がまた学び、考えて実践する。そうしたサイクルが続くよう、私は自分の思いを行動で示していきたいと思っています。